

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4271101372
法人名	社会福祉法人せいひ会
事業所名	グループホーム翠風
所在地	長崎県西海市西彼町中山郷2118番地 (電話) 0959-29-5100
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成19年11月27日

【情報提供票より】 (平成19年10月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 13年 7月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	19人 常勤 18人, 非常勤 1人, 常勤換算 7.8人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋建て
	1階建ての 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要 (10月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1		名	要介護2	4	名
要介護3	4	名	要介護4	1	名
要介護5		名	要支援2		名
年齢	平均 91 歳	最低	83 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人琴生会大石共立病院、田中クリニック、西彼歯科診療所
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、周辺を豊かな自然に囲まれており、空気が澄み、静かでゆったりとした生活が出来る環境となっている。ホーム内も快適な空間が広がっており、特に縁側の作りは家庭的で居心地の良い空間となっている。当グループホームは社会福祉法人の中の一施設としてあり、入浴や外出等の日々の介護サービス、緊急時などの様々な面で隣接している他の施設との協力体制が期待できる。また、立地条件上、研修や行事への参加は研修や行事への参加は困難な中、積極的に情報を集め実施へ努めている。評価の結果は、真摯に受け止められており、管理者、職員全員で改善策を検討し、より良いサービスへ繋げていこうという意識が感じられる。管理者、職員共に、「最後まで悔いのない介護者であること。人間らしく生きてもらうこと。」の経営理念を基に、役割分担をしながら利用者の安全を第一に見守る体制を維持し、生活共同体として「教わることの大切さ」を日々学ぶよう心がけている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価時の改善項目は、管理者、職員全員で改善に向けた検討が行われ、改善計画シートに内容がまとめられている。これらは、改善がなされている事が資料や視察により確認する事が出来た。今後の更なるサービスの向上に期待が出来る。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価を作成するにあたり、管理者、職員全員で意見を持ち合い行われている。改めて自分自身の行動や考え方を確認できる機会として捉えており積極的に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	現在のところ、運営推進会議の実施までには、至っていない。しかし、会議の実施に向けて準備をしている段階であり、より意義のある内容とするための検討を行っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族からの意見や要望は、訪問時に行う随時面接の際に抽出しており、他には電話でも抽出を行いサービスの向上に繋げている。また、利用者の生活様子を伝えるために、定期的に広報誌を送付している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域交流の実現がなかなか難しい立地条件の中、多くの行事が開催されており、地域の住民や施設との交流に努めている。行事の際の利用者の有意義そうな顔や様子が、ホーム便りや、ホーム内に掲示されている写真で確認できる。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者、職員が皆で意見を出し合い作成した「最後まで悔いのない介護者であること。人間らしく生きてもらうこと。」という事業所独自の理念を掲げ、地域に密着したサービスの提供に努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、ホームの玄関等に掲示されており、誰もが日々確認できるようになっている。理念である「人間らしく生きてもらうこと」はその人らしさを尊重する支援につなげており、「地域との交流を今後、さらに力を入れていく」という理念の実践に向け取り組む姿勢が確認できる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	中山地区を中心に、保育園の運動会や神社の夏祭り、役員関係者による芸能保存会などに参加したり、地区の方々の協力を得て敬老会を実施するなどの交流を図っている。立地上交流が難しい中、年間スケジュール表を作成し、積極的に地域との交流を多く設けるよう努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者からは自己評価・外部評価を1年間のサービスの見直しとして捉え、サービスと職員の意識向上のために有効的に活用しようという意識が感じとれる。また、前回の評価結果については、改善計画シートを作成し、管理者、職員等との間で話し合いを行い、改善がなされており、より良いサービスの実現に活かされている。しかし、経験年数の違いなどから職員全員に浸透するには至っていない。	○	管理者が中心となり外部評価の意義を今一度確認し、活用の仕方について職員も踏まえて検討していく事が望まれる。また、WAMNETの情報を提供し、他のホームの状況を掴んでもらうなど、サービス向上へ向けた職員の意識向上に繋げていく事を期待する。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在のところ運営推進会議の実施までには至っていない。開催する意義のある運営推進会議実施のためにその目的や内容の検討を行っている段階である。	○	回数を重ねるだけでなく、内容のある会議を実施したいという考えから、まだ検討段階に留まっているとのことであるが、運営推進会議の開催は法令にも謳われており、今後、早期開催へ向けて取り組んでいく事が望まれる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との連絡は、法人管理部を通して随時行われており情報の交換等を行っている。しかし、具体的な連携の場の実現までには、至っていない。	○	来年には、連絡協議会が設立されるという事であるので、この設立をひとつのきっかけとし、今後も引き続き働きかけを行っていく事が望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族への利用者の状態報告は、電話や広報誌で随時行っており、家族の訪問時には面会を行っている(遠方の家族で面会が難しい場合は、電話連絡を月2回は必ず行っている。金銭出納に関しても面会時等に行っている)。また、職員の異動の際には、その都度、口答等により報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を設けるまでには至っていないが、面会時など、家族からの意見を抽出する機会を設けている。また、苦情受付の窓口は明確になっており(第三者委員の設置及びフロー表を掲示)、意見箱の設置も行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動がある場合は、引き継ぎの際に十分な情報交換を行い、利用者の負担を軽減するよう努めている。利用者の入所時記録やケース記録の内容は事細かに記載されており、新しい職員であっても情報の把握が行いやすい。また、同法人内の他ホームとほとんどの職員が兼務しており、その連携が良くとれており、どちらかのホームで異動や離職で人手が足りなくなっても対応が出来る。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内は隣接する法人事務局の掲示板に掲示され誰もが参加できる体制を整えている。また、参加した職員は、報告書の作成を行い、全体会議で報告会を行っている。管理者は積極的に研修等の情報を集めて職員に提供し、職員全体でサービスの質の向上につながるよう努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他ホームとの交流の他、地域の同業者との勉強会、情報交換の場としてのネットワークがあり参加している。また、全体会議で報告会を行い職員への還元も行っている。他のホームを見学してみたいという職員の要望へも前向きに受け止め実現に向けて検討している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居時記録、診療情報提供書、保険者証、薬の説明書、ケース記録等のように入所する前に利用者の性格や状態等の情報を収集する事に努めている。また、要望があれば入居する前にホーム見学に来てもらい体験入所に対応する事もできる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の気持ちや意思を第一に考え、原則、見守る体制の中、さりげない介護を行う事に努めている。また、言葉使いに注意する等、人生の先輩として敬う意識を大切にしており、その中で、職員が学ぶもの、得られるものもあるという事で「教わることの大切さ」を日々学ぶよう心がけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日々の生活や暮らしぶりを真摯に見つめ、随時、記録に落としている。その記録は、職員全員が共有できるようになっており、他にもミーティングや申し送りの際にも、利用者の思いや意向を把握できるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成時には管理者、職員で話し合いを行い、意見交換を行い検討している。また、利用者本人の希望を第一に考え、家族との面接の際に、随時、話し合いを行い、意見を反映するように努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、以前は6ヶ月に一度の見直しとしていたが、原則、3ヶ月に1回見直しを行うよう変更している。また、本人の状態に変化が生じた場合は、随時見直しを行う事としている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の希望や必要に応じて、車両による通院や送迎援助等、柔軟に対応できる体制を整えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム入居時に家族等と話し合い、かかりつけ医を決定している。法人内の他施設や協力医療機関との連携体制も整っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の将来の方向性については、家族等と話し合いを行っているが終末ケアに関する契約書の整備等の具体的な体制作りまでには至っていない。	○	ホームのおおまかな方針は決定されているが、今後、もし、家族から要望があった場合のためにも文書による明確化や契約書等の書類の整備を検討される事を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は入社時に守秘義務の指導および誓約書を作成している。記録等の個人情報は、情報開示規定に則り、所定の場所へ収納している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の記録から体調を把握し、生活のリズムが崩れないように注意しており、見守る体制の下、さりげない介護や声かけを行っている。利用者本人の意思を尊重し、一人ひとりの希望に対応できるよう心がけケアにあたっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、利用者と一緒に職員も摂り、楽しそうに会話をしている様子が伺えた。また、利用者のできる範囲で、簡単な食事の準備や、食器拭き、片付けの手伝いをしてもらっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日という曜日は特別には決めておらず、その都度、利用者の希望、状態に応じて対応している。同法人内の他ホームとの協力が出来るため、対応しやすい。また、法人内には、別施設に展望風呂があり、利用者の希望があれば利用できる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入所時の記録や日々の会話か利用者の生活歴や好みを把握し支援している。また、洗濯たたみや洗濯物干し、食器洗い、掃除など、利用者が参加できるような場面作りにも努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物に行く際には、法人で出している買い物バスが利用できる。また、本人の意思を尊重した上で、散歩や病院への通院、行事への参加の際に外出支援を行っている。車いす利用の場合も同様に外出する機会を作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜9時以降となっており、日中は開放されている。見守る体制が出来ており、利用者の動きには、職員が十分な注意を払っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署や神社の協力を得て、3ヶ月に1回の防災訓練を実施している。対応マニュアルや、連絡網の整備など、体制が確立できており、職員も皆、把握している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や水分摂取量は日々、記録がなされている。カロリーや、栄養バランスは調理師が中心となり献立作成を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的に音、空調、光の度合いは適当である。リビングには、ソファやテーブル、テレビ等が配置されており、利用者は、居心地良さそうに過ごされている。また、廊下の縁側にあるスペースは、日本独特の家庭的な造りである。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が使い慣れたタンスや仏壇、家族との写真、時計などできるだけ持ち込んでもらうようにしている。また足りない調度類を法人側で準備する際も、家庭で使われているようなものを選択するようにしている。		

※  は、重点項目。